

富士山 sea to summit

海拔0 m から 3776 m へ

2022年07月02日(土), 3日(日)

参加者：桐林（記）



登山ルート 3776

登山口まで自動車を使い、何も疑問を持たず、軽々と「あの山を登った」と言ってしまう。「ああ、今度はあそこに行こう」。本当にその山を知っているのか！？もっと、体感しないのか！？いつからか、日本の最高峰富士山を海から登ってみたい、確かめてみたい、手にしてみたい、とチャンスを窺っていた。調べてみると、富士市で『[登山ルート3776](#)』富士おこしをしている。

想定コースは（町おこしだから）3泊4日。一気に詰めたいと、0泊2日で敢行した。結果、約17時間で山頂、往復約20時間で、海に戻ってきた。事前に富士宮口新5合目に自転車と食料をデポした。往路はダウンヒルを楽しんだ。

7月2日朝、浜松を5時過ぎ出発。まずは富士宮口新5合目へ。山梨側の開山日に合わせ人がどっと来たようだ。路駐もしていた。食料を調達し、仮眠を取るた

め、湯らぎの里へ。15時公園を出発。まさかのテトラポッドで埋め尽くされており、ふがふが言いながら海水をタッチ。核心はここか！？暑さにやられた。道路区間12kmで、2ℓ近くを飲んだ。

林道区間で陽が落ち、途中から霧に包まれた。ホラー映画は逃げれるが、現実には逃げられない。途中のあづまやでの休憩中、ふと気配を感じ後を振り返ると、ガソガソ、ガッシャーンっと、何かが地面に叩きつけられた。何なんだあの音、肝が潰れた。もう休んでいられない。

富士スカイラインにぶつかり、自動車が行き交う喧騒に今回は安心感を覚えていた。旧ゲートからやっと森の中へ。土だから疲労度が違う。だが限界が近く、ドコドコ木に足をぶつけていた。新5合目には26時過ぎだろうが、デポ地に着いた。暖かい物を食べた。アルコールも少々。ツェルトを被った。アスファルトは冷たかった。

寒いと言いながら、まどろみ、1時間半はじっとしていただろう。これだけで足の疲労が70%は回復していた。夜も開け切ったが、雲の中。風雨に晒され、上は寒かった。剣ヶ峰最後の登りに気合が入った。

やってみれば何てことはない。その山に対しての愛情はより格別に。仮眠でも睡眠による疲労回復は侮れない。一步をより踏み出せるようにったと、思う。